

# 宮内・撰田屋百景

100 views of Miyauchi Settaya



第15回美術館大学「『越後百景十選』について」 講師：河田博、秋山孝 2012年7月7日

ごあいさつ

秋山 孝

秋山孝ポスター美術館長岡・館長  
多摩美術大学・教授

秋山孝ポスター美術館長岡 (APM) は、社会に貢献するために「1.ポスター作品の展示 (アーカイブ)、2.研究、3.教育」の3本の柱を目的としています。今回の第16回企画展「宮内・摂田屋百景展」は、4月19日から6月30日まで開催する宮内・摂田屋地区に焦点をあてた展示です。教育から生まれ研究を経て、創作へと辿り着き展示するというAPMの理想とする展示発表です。

1-教育のために多摩美術大学大学院のイラストレーション研究グループ院生の課外授業としてAPMを活用することにした点です。これはAPM創立から5年継続しました。この継続の結果、宮内・摂田屋に愛着と興味を持つようになり宮内・摂田屋ひいては長岡さらにその周辺の雪国の生活や独自性に心に響き渡る魅力を感じました。

2-同大学院イラストレーションスタディーズの「メッセージイラストレーションポスター展」を毎年開催したことによって美術館の持っている力が発揮されたことです。美術館の力は、美術館が持っている美の空間の中で自分の絵を客観的に凝視し、鑑賞者の目に晒されるといふふりにかけられ、他者との比較によって自分の絵に対する自己批判へと導きます。それは自己認識、自主性、自立に繋がり、その結果、厳しさと深い思索力とともに次の創作へと向かうエネルギーを作り出すのです。

3-APM美術館大学という名の講演会を企画展の初日に行っています。継続的に開催され、すでに22回となりました。展示会の意義やそれにまつわる考えなどを講演という形で学び理解を促します。

4-2012年に開催した第10回企画展「越後百景十選」によって越後の文学的あるいは江戸時代浮世絵による日本の風景画の表現システムを踏襲することができました。

5-同大学院美術研究科修士論文、大町駿介「建物イラストレーションの意義」において「新潟県長岡市宮内・摂田屋地区における研究」で伝統的建築様式の特徴と景観を実地調査発表しました。

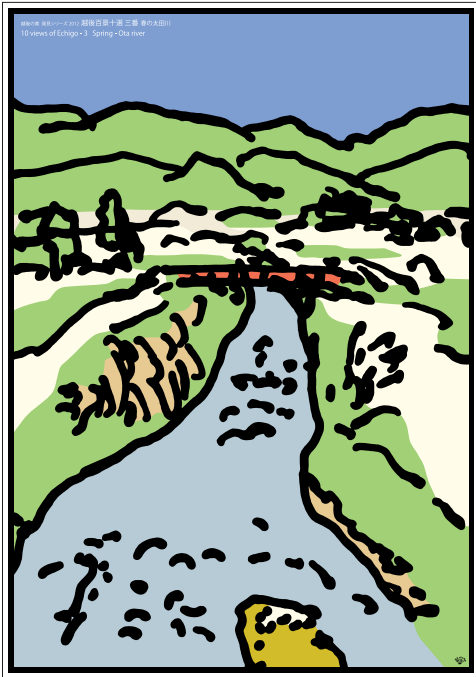
上記のプロセスによって「宮内・摂田屋百景展」の意義を見いだしました。そこには地域文化遺産としての価値があることを実感でき、地域貢献として地域再発見ポスターという魅力的なメディアで開催することに至りました。「宮内・摂田屋百景展」はこのようにして生まれ、創作へと向かうことによって、いかに豊かな人間性と柔軟な心を作り上げるかを理解していただきたい。稀有な美術館の試みです。



課外授業「『メッセージイラストレーションポスター展5』講習会」  
2013年10月6日



多摩美術大学大学院美術研究科 後期講習会  
2014年1月22日



秋山孝-01

[Title] ----- 越後百景・十選三番 春の太田川 (栞田屋3丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2012  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

越後の冬は長く、生活する人々は豪雪に耐える。やっとならずかに感じる雪解けは、春を待ちわびた喜びだ。そして、緊張が解けるかのように山々の雪は解け、静かに流れだす。大地にしみ込み湧水となり、小川に注ぎ川となる。ぼくの生まれた育った宮内(室町時代、都野神社の境内/宮内に由来)・栞田屋(都野神社の門前町/栞待屋に由来)は古く1548(天文17)年からの醸造の町だ。そこを流れる信濃川支流、太田川は上流山古志村に通じる。その恵みが静けさを生み、心豊かな生活を造る。子供のころから太田川のせせらぎの音を聞き、四季折々の風景を見ながら山あいの蓬平(よもぎひら)を訪れた。



秋山孝-02

[Title] ----- 越後百景・十選六番 醤油桶 (栞田屋3丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2012  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

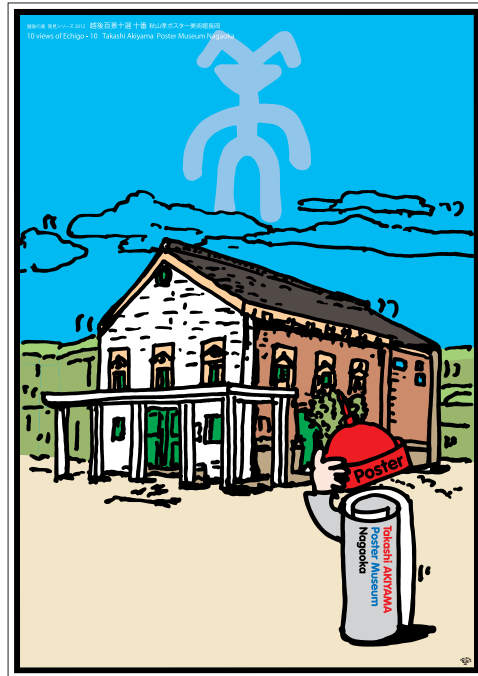
人間にとって古い醸造業は、「越後の美」の一つにあげられる。ぼくの町の栞田屋にはみごとに醤油桶がある。ここに描いた「越のむらさき」の桶は1928(昭和3)年に製造され、材質は杉材で重さ1トン、9,000リットルの生揚(きあ)げが入る。工場で熟成したもろ味を搾った生揚げを入れたものだ。1,8リットル瓶で約5,000本の醤油になる。旧三国街道沿いにあった上組小学校を登下校するときに醤油の香りと酒蔵を歩くのが日常だった。東山と田んぼそれに雪、それぞれが与えてくれる自然の恵みが、ぼくに美しきの源を作ってくれたと思う。



秋山孝-03

[Title] ----- 越後百景・十選八番 機那サフラン酒製造本舗土蔵 (栞田屋4丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2012  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

日本で最も美しい蔵と呼ばれている大正末期に造られた「機那サフラン酒製造本舗土蔵」は、長岡市栞田屋にある。子供の時から当たり前の風景であったが美しさだけは気がついてきた。小江戸と呼ばれる川越を代表し関東一門の蔵造りと比較すると、なんとも軽快感のある美しい形だ。どこに違いがあるかと言うと、川越で見られる蔵は屋根が重々しく見栄を張ったようなデザインとなっているが、サフラン酒蔵は屋根が軽く河上伊吉の鏝絵が施されている。日本の中でここまで美しい鏝絵は見たことがない。創業者吉澤仁太郎のアートのセンスは計り知れない美意識を感じる。

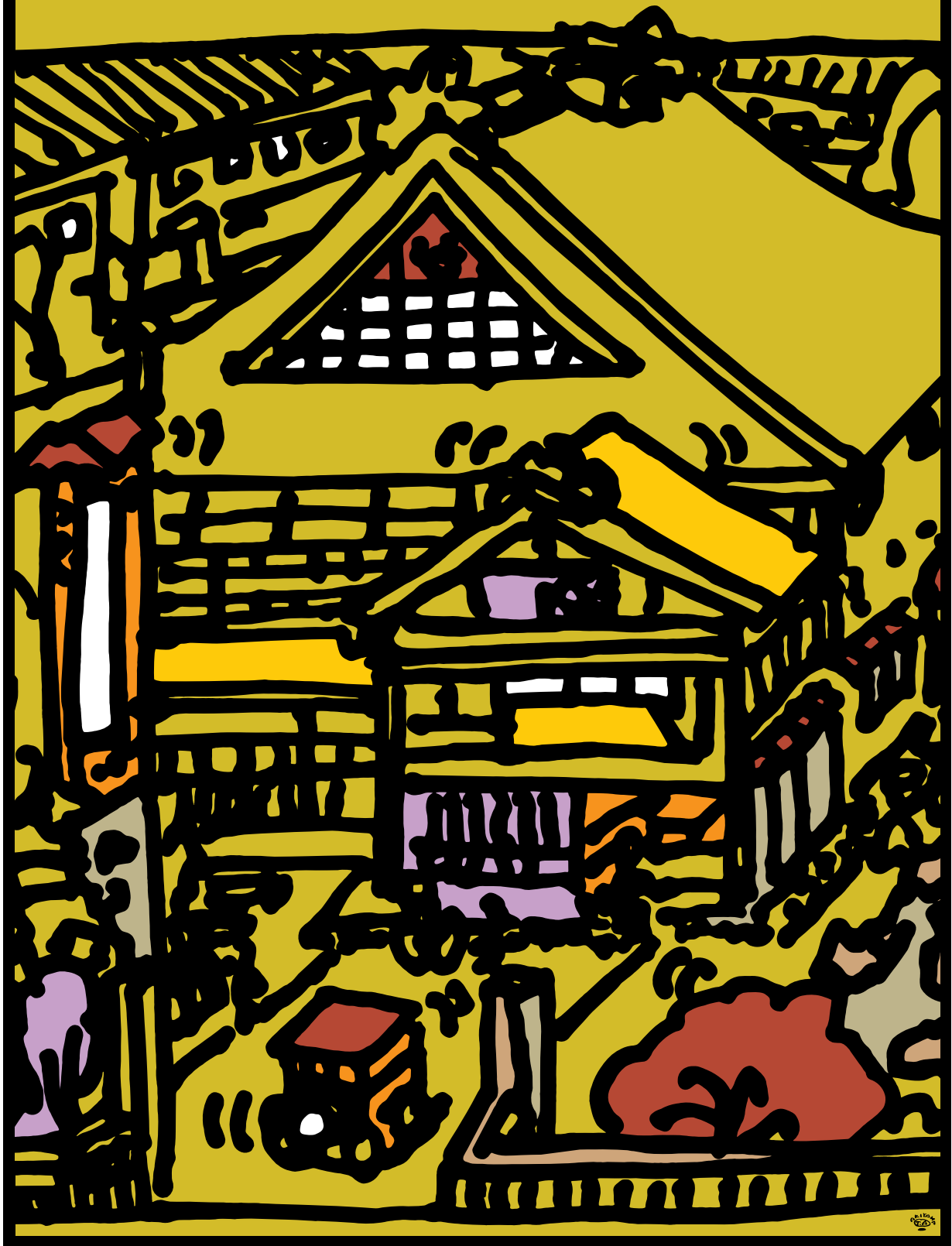


秋山孝-04

[Title] ----- 越後の美・十選十番 秋山孝ポスター美術館長岡 (宮内2丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2012  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

「越後の美」発見シリーズの最終回は、「秋山孝ポスター美術館長岡」を選んだ。2009年7月11日に開館し日本で唯一のポスター美術館で都市景観賞を受賞している。この歴史的建造物は1925(大正14)年に建設され、北越銀行宮内支店として宮内、栞田屋地区の人々と共に歩んできた。しかし、震災や度重なる地震などによって老朽化したため修復保存し、地元の人々の協力を得てここに簡素でモダンな美術館が誕生した。歴史ある醸造の街旧三国街道の宮内・栞田屋地域の魅力を再発見し新たな街づくりとして「文化と自然」「美と教育」の実現に貢献したいと願っている。

100 views of Echigo Takashi Akiyama Posters 4 / 2012.07.07sat - 09.23sun  
「越後百景十選」秋山孝ポスター展4



秋山孝-05

[Title] ..... 「越後百景十選」 秋山孝ポスター展4 機那サフラン酒本舗 (撰田屋4丁目)  
[Size] ..... 1030 × 728 mm (B1)  
[Technique] --- Ink-jet printing  
[Year] ..... 2012  
[Client] ..... 秋山孝ポスター美術館長岡  
[Category] ..... Culture

「秋山孝ポスター展4」は、越後をテーマとした「越後百景十選」(10点)をメインに展示した。以前からぼくは、故郷の越後をモチーフとした「越後百景」を制作しようと考えていた。越後は、まだまだ計り知れない魅力とその美しさに満ちあふれている。そこには、奥深い歴史と人間性のある生活から出てくる独特の表情と、その自然による地形や人が育んできた文化があるからだ。江戸の浮世絵師、北斎や広重とは少々異なるが、現代のメディアであるポスターで越後の美を表現したいと制作した。ポスターデザインは、歴史ある建物が残る長岡市撰田屋、機那サフラン酒本舗(創業者:吉澤仁太郎)の豪華なエントランスと母屋それぞれに1911(明治44)年の木製看板も描いた。



秋山孝-06

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 旧高田屋米店 (宮内2丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2013  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

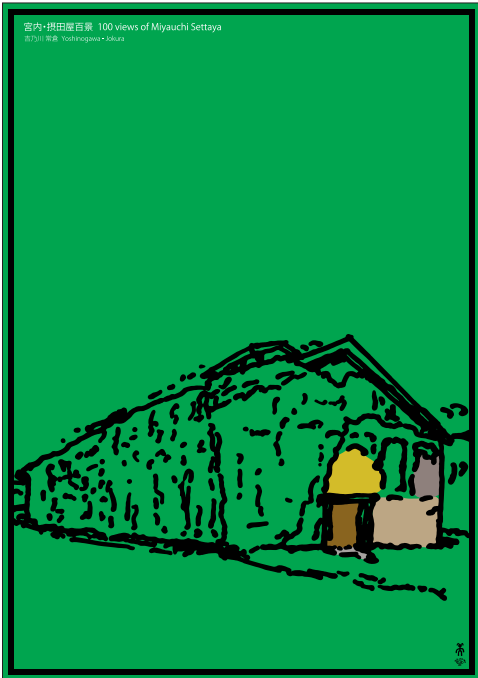
2014年4月19日から6月30日までの期間、秋山孝ポスター美術館長岡(APM)で開催する「宮内・摂田屋百景展」のために制作した。参加者は7名で59点のポスター作品を展示し、宮内・摂田屋の魅力を見つめ直す試みである。宮内・摂田屋には有形登録文化財となる蔵などがあると共に雪国独特な雁木で知られている。このポスター作品の「越後の米穀商高田屋」は宮内二丁目にあり歴史のある米屋さんとして知られている。2013年に改築する前の建物で、越後の米穀商としての趣があり美しい建物だった。ぼくの思い出のひとつであり、APMの向かいに位置していた。



秋山孝-07

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 越のむらさき (摂田屋3丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

ぼくの子供の時は、ヤマタ醤油と呼んでいた。ところが東京から久しぶりに帰省すると名前が「越のむらさき」となっていたが、今ではどちらも懐かしい。創業は1831(天保2)年から醤油造りという歴史を持っている。もちろん「越のむらさき」の味がぼくの醤油の基本になっている。母校の上組小学校からの帰りに吉乃川の酒のにおい、醤油の香ばしきの旧道を歩きながら土蔵の間を歩いて宮内駅前の自宅(現在、秋山孝ポスター美術館長岡・蔵)まで帰宅した。冬、しんと雪が積る日も、真夏の蝉の鳴き声とともにプールで泳ぐ日も「越のむらさき」の道しるべ地蔵と竹駒稲荷の前を歩いた。宮内・摂田屋百景のメイン地点だ。



秋山孝-08

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 吉乃川 常倉 (摂田屋4丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

吉乃川「常倉」は、1923(大正12)年に建築されたもので、フレンチトラストの構造を持つ鉄筋造だ。1階の柱を減らすため2階床組は吊るされている。そのため製品倉庫としての機能を満たしている。さらに中越地震で被災したが、耐震補強して働いている。ぼくは、小学生の時から通学路にある「常倉」を眺めながら学校に通った。春になると壁一面にツタが絡みそのミドリ色の輝く美しさを理解した。夏から秋にかけてツタのグリーンの微妙な変化に気づいた。また、絵画でははかって現すことのできない美的世界がそこにあった。冬にかけて枯れ葉になるプロセスから、植物のはかなさも知った。心に訴える「吉乃川常倉」佇まいだ。



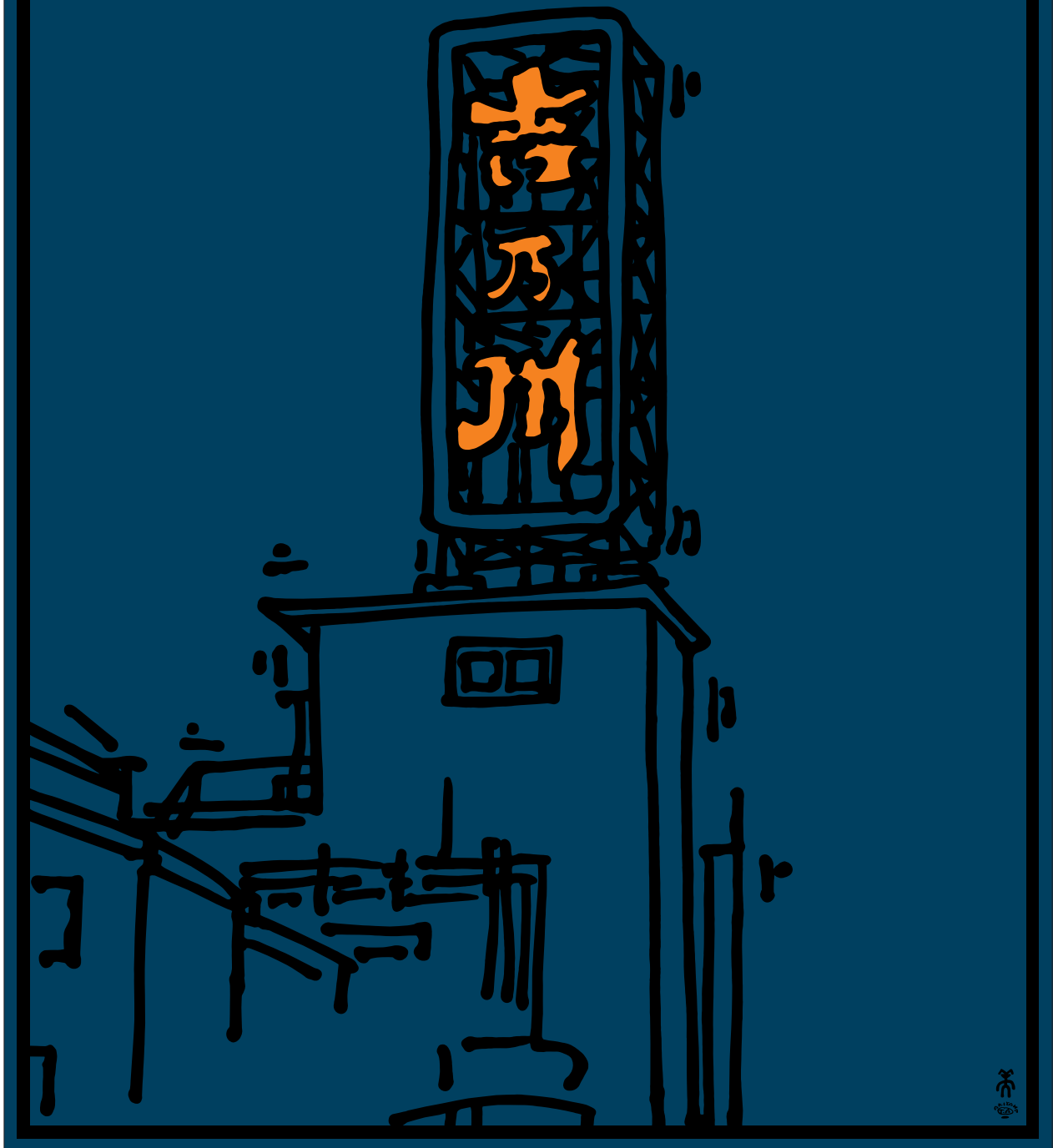
大町駿介-01

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 秋山孝ポスター美術館長岡 (宮内2丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

1925(大正14)年に「長岡商業銀行宮内支店」として建てられた建物である。その後六十九銀行、北越銀行へと引き継がれ、1970(昭和45)年まで銀行店舗として使われた。支店移転後は長らく田上商店の倉庫となっていたが、2009年には修復が完成して美術館となり、再び活用され始めた。近代建築であるが妻入・雁木という長岡の伝統様式を踏襲し、1945(昭和20)年の長岡空襲では延焼を食い止め、また2004年の中越地震にも耐えた貴重な建物である。

宮内・摂田屋百景 100 views of Miyauchi Settaya

吉乃川 ネオンサイン Yoshinogawa - Neon Sign



秋山孝-09

[Title] ..... 宮内・摂田屋百景 吉乃川 ネオンサイン (摂田屋4丁目)  
[Size] ..... 1030 × 728 mm (B1)  
[Technique] --- Ink-jet printing  
[Year] ..... 2014  
[Client] ..... 秋山孝ポスター美術館長岡  
[Category] ----- Culture

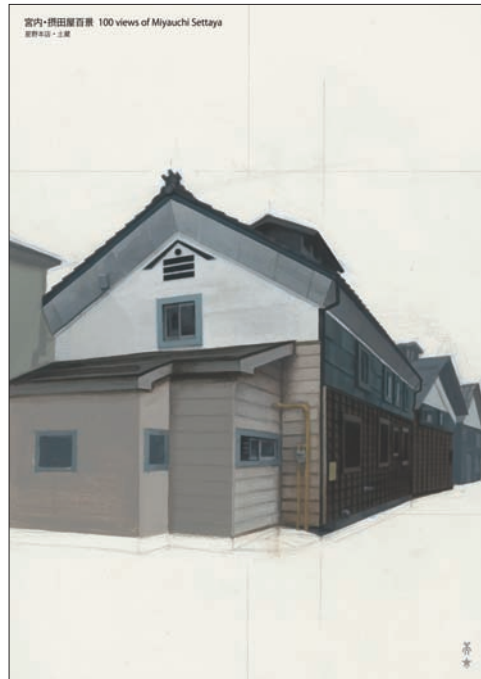
この作品も「宮内・摂田屋百景展」(2014/4/19-6/30)のために制作したものだ。吉乃川は戦国の上杉謙信が活躍した頃、1548(天文17)年創業で460年経った酒蔵だ。仕込水は敷地内の地下深くから湧き出る信濃川の伏流水で「天下甘露泉」と呼ばれている。そのため非常に優れた日本酒を作っている。ぼくが卒業した上組小学校は現在の吉乃川の敷地内にあった。闇に浮かぶ力強い吉乃川のネオンサインのロゴは心の豊かきのシンボルであり、街のプライドの輝きでもあった。今から60年前ごろにはネオンサインの上にサーチライトがあり、街中を照らしていた。



大町駿介-02

[Title] ----- 宮内・撰田屋百景 機那サフラン酒本舗・土蔵 (撰田屋4丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

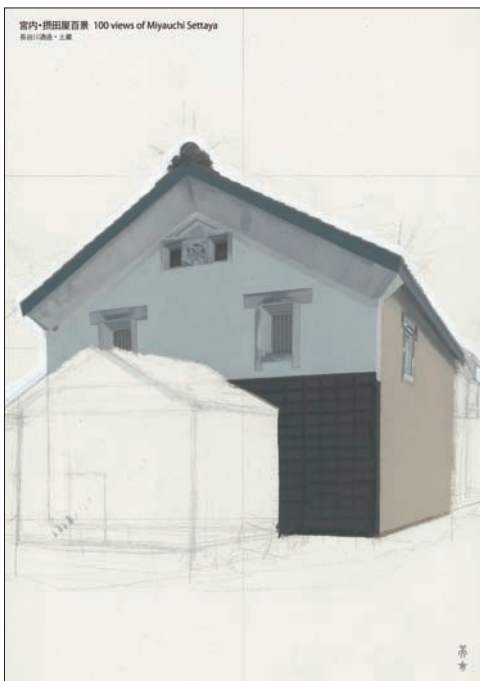
「鍍絵蔵」の北側に建てられた土蔵である。鍍絵の美麗さはないが、黒漆喰で塗り分けられた3段の鉢巻や窓のまぐさ、大きな鬼瓦、また堂々と描かれた家印などを見ると、なかなか立派な造りをしていることが分かる。窓の庇の持ち送り金具など鍍絵蔵と同じ洋風のデザインである。窓回りや水切りがところどころ崩れていたり、また腰にトタンが巻いてあったりしているが、撰田屋の持つ様式の美しさを十二分に發揮している。



大町駿介-03

[Title] ----- 宮内・撰田屋百景 星野本店・土蔵 (撰田屋2丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

敷地の北側の角に建つ土蔵で、洋館の事務所と連結されている。表面に描かれた独特な家印が目立つ。これは「ヤマホシサン」と読み、味噌と醤油の商標でもある。1919 (大正8) 年の『絵画北越商工便覧』に星野本店のイラストレーション入りの広告が掲載されているが、この土蔵と思われるものがすでに描かれている。星野本店は創業168年を迎える。他にも「衣装蔵」という三階建ての土蔵があり、扉に『顔氏家訓』の一節が墨書されている。



大町駿介-04

[Title] ----- 宮内・撰田屋百景 長谷川酒造・土蔵 (撰田屋2丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

敷地の北端、星野本店と向かい合って建つ大きな土蔵である。壁面はほとんどサイディングで覆われているが、窓回りや家印はそのまま残っている。家印は草書の「長」を鶴に見立てたもので、珍しいデザインの鬼瓦にも鶴が描かれている。ゆるやかな傾斜を持つ屋根、彫りの深い鉢巻など、長岡らしい安定感のあるかたちを見ることが出来る。



大町駿介-05

[Title] ----- 宮内・撰田屋百景 味噌屋六・土蔵 (撰田屋4丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

主屋右手の奥まったところに建つ土蔵である。星野本店にあったものを分家の際に移築したもので、さらに大正時代には曳家がなされたので「動く蔵」という愛称を持っているようである。白と黒に塗り分けられた鉢巻と水切りが独特で美しい。また腰板とのコントラストも際立っている。屋根は置屋根とし、やはり傾斜がゆるやかである。





大町駿介-06

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 旧上組村役場 (摂田屋4丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

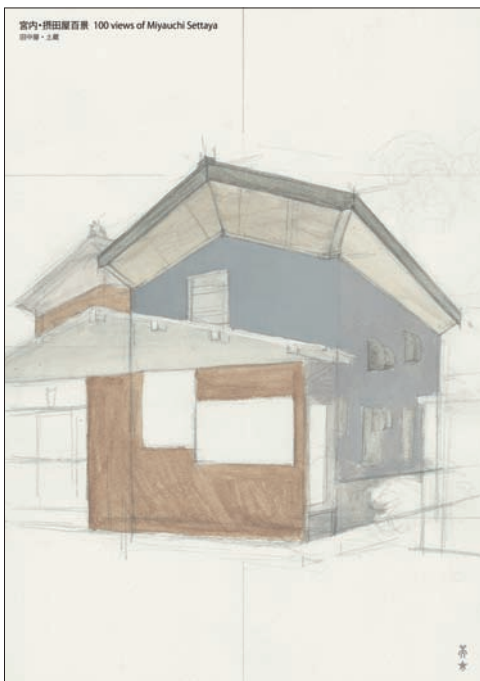
1932 (昭和7) 年に上組村役場として建てられた建物である。その後宮内町役場となり、長岡市に合併してからは宮内公民館となったが、1990年に新しい公民館が出来たため取り壊されて現存しない。上組小学校に写真と詳細な記録が残されており、総工費25,778円、本館建坪66坪、玄関3坪、一階は事務室と村長室など、二階は会議室だったとある。塔上に六方を向いたサイレンが取り付けられていたが、今の公民館にも同じものが設置されている。



大町駿介-07

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 旧上組信用組合 (摂田屋4丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

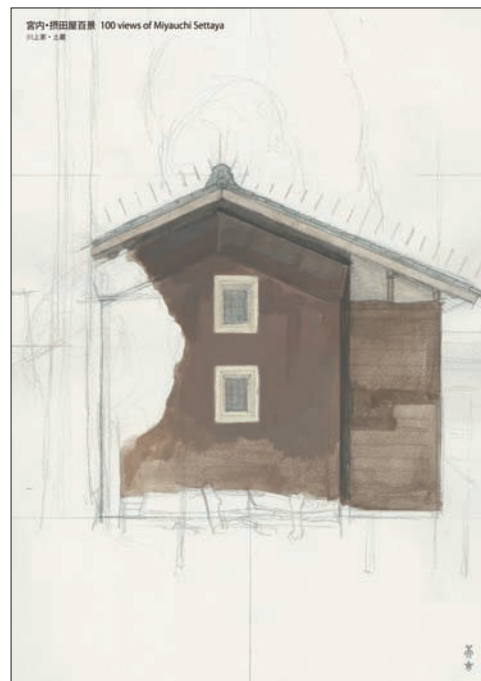
1925 (大正14) 年に建てられた建物である。詳しい日時は分からないが、中越地震の時にはすでに取り壊されていたようである。宮内交番の並び、役場の斜向いに建てられていた。これも上組小学校に資料が残されており、保証責任上組信用組合の事務所として建てられたようである。『新潟県の近代建築』によると戦後に自治体警察や農協の信用部が入居し、最後にはオンヨネの工場となっていたようだ。この一帯が村の行政の中心であった。



大町駿介-08

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 田中屋・土蔵 (宮内7丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

宮内地区の北側、7丁目の西側に入ったところに、住宅に囲まれるようにして建っている土蔵である。この一帯は1945 (昭和20) 年8月1日の長岡空襲で焼失しているが、翌年に撮影された航空写真を見ると点々と建物が焼け残っているのが分かる。この土蔵もその一つである可能性がある。鉢巻のかたちや屋根の斜度は長岡の様式を残すものであり、宮内に残るおそらく最後の土蔵である。



大町駿介-09

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 川上家・土蔵 (摂田屋3丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

摂田屋3丁目南側に残る民家の土蔵である。全体が金属板に覆われているが、窓回りだけが漆喰のまま残っている。金属板が風雪に晒され、魅力ある古色を織り出している。2つ並んだ窓の構成も面白い。ここからやや離れた東側に、同じような土蔵がもうひとつ建っている。かつて摂田屋にはこのような土蔵が数多くあったのだが、中越地震で軒並み消えてしまったのだという。



大町駿介-10

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 秋山孝ポスター美術館長岡・蔵 (宮内3丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

2013年に秋山孝ポスター美術館長岡の収蔵庫として、摂田屋5丁目の高田建築事務所により新築された建物である。宮内駅のすぐ前に建てられ、駅のホームからも目立って見える。白壁に杉板の腰壁が映える摂田屋の醸造業の美しい土蔵をモチーフとしており、美術館本館と屋根のデザインを統一している。また玄関へのアプローチとして雁木を取り付けているのも良い。



大町駿介-11

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 越のむらさき・主屋 (摂田屋3丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

明治時代に建てられた建物である。玄関先には1806(文化3)年に建立された地藏像がまつられており、台石に「右ハ江戸、左ハ山道」と彫り込まれている。かつてはこの建物の前が旧三国街道の追分となっていたのである。街道は右へ折れ、江戸時代のままの幅員を残して醤油蔵の合間を通り抜けてゆく。建物は事務所として使われているが、ゆるやかな大きな屋根は雪への備えを思わせる。板壁には麹菌が取り付き美しく黒ずんでいる。



大町駿介-12

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 越のむらさき・土蔵 (摂田屋3丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

主屋の向かって左側に接続された土蔵である。1877(明治10)年に建てられたもので、黒く塗り込められた鉢巻・窓回りが印象的だ。土蔵の前には杉の「醤油桶」が置かれており、その大きさに驚く。越のむらさきには他にも古い建物がよく残っている。いずれも現役で使われており、側を歩くと麴の香りがする。



大町駿介-13

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 味噌屋六・主屋 (摂田屋4丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

三国街道(旧国道)沿い、サフラン酒の南斜向いにある味噌醸造業の建物である。長岡の町家の典型的な姿であり、妻面を真壁として美しく木組みを表し、その下に雁木を取り付けている。左右に連続する建物がないので、雁木は半分が車庫になっている。車庫のシャッターには店名が描かれているが、これは中川一政の揮毫による。

宮内・摂田屋百景 100 views of Miyauchi Settaya  
旧 堀井時計店



大町駿介-17

[Title] ..... 宮内・摂田屋百景 旧 堀井時計店 (宮内2丁目)  
[Size] ..... 1030 × 728 mm (B1)  
[Technique] --- Ink-jet printing  
[Year] ..... 2014  
[Client] ..... 秋山孝ポスター美術館長岡  
[Category] ..... Culture

宮内2丁目南側、旧国道西側に連続する町家の一つである。1960 (昭和35) 年の住宅地図には「堀井時計店」と描かれており、たしかに雁木の下に「SEIKO」の行灯が掲げられている。2階の窓が大きくとられ、木のサッシとアルミサッシが混在している。木部はトタンで覆われ、また木組みがパネルで補修されているのも面白い。魅力ある町家の姿だ。左側にかけてられた梯子もまた長岡の建物の特色の一つで、積もる雪への備えである。



大町駿介-14  
 [Title] ----- 宮内・摂田屋百景 機那サフラン酒本舗・主屋 (摂田屋4丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

摂田屋の旧国道西側に広大な敷地を持つ機那サフラン酒本舗の、主屋の玄関部分である。玄関の右には美麗に彩られた「鍔絵藏」が、また左奥には壮大な主屋が望まれるが、この玄関部分だけはゆるやかな屋根といふ表面の木組みといい、長岡の町家らしさが感じられる。この玄関部分だけは創業時から変わらないのかもしれない。右書きの看板と、けらばの下に鳩小屋が残っている。



大町駿介-15  
 [Title] ----- 宮内・摂田屋百景 堀建商店 (宮内1丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

宮内1丁目、旧国道沿い東側にある大きな商店である。雁木部分を閉鎖して店舗スペースにしており、ちぐはぐになってしまっているが「朝日山」「初日正宗」「お福正宗」またその上には「越の誉」と、地酒の銘柄が並ぶ行灯が嬉しい。前面の木組みは和小屋だが、隠れた裏面の木組みがキングポストトラスになっているのが面白い。裏手は酒場になっている。



大町駿介-16  
 [Title] ----- 宮内・摂田屋百景 旧綿勇商店 (宮内2丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

宮内2丁目南側、旧国道西側に連続する町家の一つである。1960 (昭和35) 年の住宅地図を見ると「綿勇商店」の店舗であったらしい。妻面の小屋組みは貫を3段としているが、これを含めて3棟、同じデザインの町家が連なっている。航空写真を見ればかぎり戦前からある建物のように見える。店舗部分を車庫にしている。



大町駿介-18  
 [Title] ----- 宮内・摂田屋百景 竹桶茶舗 (宮内2丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

宮内2丁目南側、旧国道西側に連続する町家の一つである。雁木の前に縞模様のオーニングが設けられているが、宮内の商店にはこれがよく設けられている。店舗の入り口は改装されており、また2階部分も金属板で覆われているが、木組みだけはもとのまま残っている。建物の右端で雁木が途切れているためか、筋交いで補強されているのが面白い構成だ。



大町駿介-19

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 旧 大丸旅館 (宮内2丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

1960 (昭和35) 年の住宅地図には「大丸旅館」と記してある建物である。外壁が大きく改修されているようだが、全体としては長岡の町家の様式を残しており、連続する雁木通りのひとつとして価値がある。雁木も交換されたようであり、他のものよりもやや天井が高い。交通量が多いところでは、このように雁木の柱に板を渡すことが多い。長岡には見られないようだが、弘前でこのような板戸を着脱可能にしている雁木 (弘前では「こみせ」という) を見た。



大町駿介-20

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 綿五ふとん店 (宮内2丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

旧大丸旅館から一軒おいた北側にある商店である。やはり大きく改修されているが、店舗入り口には7枚の趣あるガラス戸がはまり、「グリーンスタンプ」のステッカーが貼ってあるのが目立つ。「ふっかふか ふとん丸洗い」や「キャップロール」など寝具の看板が残っているのも面白い。浅い青緑のトタンを山形に貼ってあるが、これは改修した町家によくみられるデザインで、おそらく雨仕舞いの機能を持っている。



大町駿介-21

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 旧 田上商店 (宮内2丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

綿五ふとん店のひとつ北の区画、旧国道西側に建っていた雁木のある町家である。右隣の高田屋米店と連続する雁木を持っていたが、高田屋米店の新築にもない2013年に取り壊された。秋山孝ポスター美術館長岡の建物を倉庫として活用していたのがこの商店である。雁木の上に乗った室外機の数々は、かつて美術館の雁木の上に乗っていたものだ。



大町駿介-22

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 旧 高田屋米店 (宮内2丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

田上商店に隣り合って建っていた規模の大きな町家である。外壁には白いトタンが貼られ、土台の両端にはタイルで「なまこ壁」のような装飾が付けられていたので、「米蔵」を意識したデザインだったのだろう。雁木の下にはベンチがある。2013年に新築した建物にも雁木が取り付けられており、「越後の米穀商」というキャッチフレーズも変わらない。



大町駿介-23

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 前島屋金物店 (宮内2丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

宮内2丁目北端、旧国道西側に連なる町家の一つである。妻面の本組みの中に窓が開けられているのが他にはないデザインである。全体を通して木部がよく残り、その古色には魅力がある。雁木の柱の間に木材を渡しており、かつては商品をつり下げのに使ったものだろうが、今は催事のチラシを掲示したりしている。店内には日用品から建材まで数多くの金物が所狭しと並ぶ。



大町駿介-24

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 旧 高田仏壇店 (宮内2丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

宮内2丁目北端、旧国道西側に連なる町家の一つである。「高田仏壇店」と書いた看板が建物の隙間に立てかけられており、宮内の商店に見られる縞模様のおーニングも備え付けられている。木組みの間の壁をところどころ板で補修してあるが、中央で出張った桁鼻にあわせて板を切り抜いているのが面白い。ここも雁木の柱の間に木材を渡している。



大町駿介-25

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 依田衣料品店 (宮内2丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

宮内2丁目北端、旧国道西側に連なる町家の一つである。上記の2つのような伝統的なデザインからは大分離れてはいるが、雁木が連続しているという点で評価した。1階は広くガラス窓がとられ、中にはマネキンが並んでいる。窓まわりを煉瓦風タイルでまとめているのも風情がある。



大町駿介-26

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 ワタナベ理容室 (宮内3丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

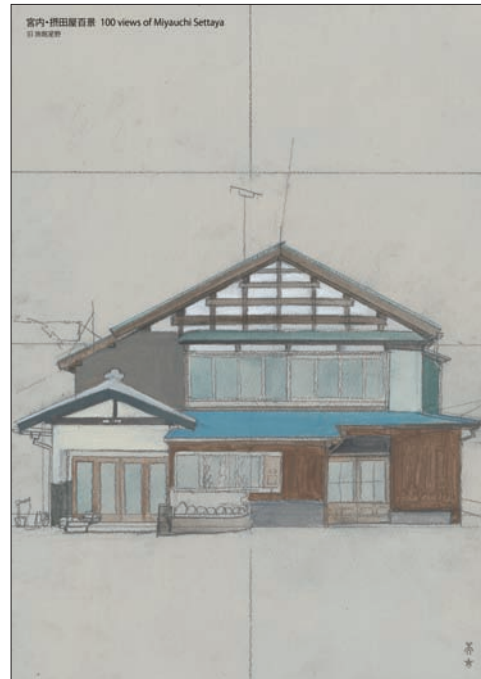
宮内3丁目、旧国道西側にある理容店の建物である。宮内駅の至近であり、現在の北越銀行宮内支店の向かいである。貫を3段とした木組みの美しさもあるが、雁木の内部がすべて白く塗られているために、明るく清潔感のある印象を受ける。戸や窓には古い木製の建具が大事に使われ、欄間窓には色ガラスがはまっているところがある。右側に屋根を下げた出入り口としているが、このような左右非対称のシルエットは長岡の町家でよく見られるものだ。



大町駿介-27

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 矢尾板豆腐店 (宮内3丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

宮内駅の北、旧国道東側にある町家である。駅より北側には新しい建物が増え、伝統的な建物は少なくなっているが、この商店には長岡らしいデザインがいくつか残っている。それは屋根の勾配、また「三本経の巻」と呼ばれる鬼瓦、そして本来の雁木ではないものの、雁木のように道路に張り出した庇のかたちである。



大町駿介-28

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 旧旅館星野 (宮内4丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

旧国道西側にある建物で、1960 (昭和35) 年の住宅地図には「旅館星野」と記されている。独立した屋根を持つ玄関や、また玄関まわりに石張りを多用するようなどころを見ると、確かに温泉地の旅館のような風情を伺うこともできる。雁木は設けられていないものの正面の木組みには上から順に太くなる4段の貫があり、長岡の様式の美しさが見える。



大町駿介-29

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 旧 富士屋食堂 (宮内5丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

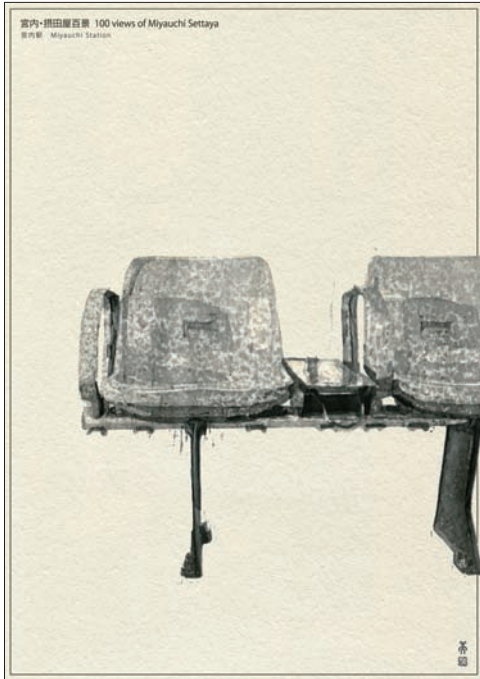
宮内の目抜き通りである旧国道はJRの線路で南北に分断されているが、その北側の5丁目にある建物である。1960 (昭和35) 年の住宅地図には「富士屋食堂」とある。右隣の三陽写真館と連なる雁木を持つが、区画の角に建っているために建物の隅が欠かれており、雁木も非常に変わった立ち方をしているのが興味深い。雁木の軒にトラスの短い足を付けて、それを斜めに飛ばした梁で受けているのである。



大町駿介-30

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 堀井木工所 (宮内5丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

建具を制作する木工所の建物である。長岡の町家の様式を示しているが、一般的な町家よりもひとまわり大きくなっている。雁木に相当する部分は閉じられているものの、木工所らしくしっかりとした木の建具が取まってお見応えがある。2階部分にも窓が広くとられ、おそらく天井のない作業場になっているようである。高くのびた煙突が印象的だ。



たかだみつみ-01

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 宮内駅 (宮内3丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

歴史と文化の多く残る宮内・摂田屋地区の町並は、ここで暮らしてきた人々の生活と共に作り上げられてきたものであり、それは現在も進行中である。そこで、地域の方の生活に寄り添ってきた道具を描き、人々の存在と尊さを表現した。宮内駅は、宮内・摂田屋地区の最寄り駅であり、1992年に現駅舎に建て替えられた。ポスターには、改札前に設置されたイスを描いた。駅を利用する多くの人々が腰掛けたり、通り過ぎていくのを見守ってきたイスだ。



たかだみつみ-02

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 平沢豊店 (宮内3丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

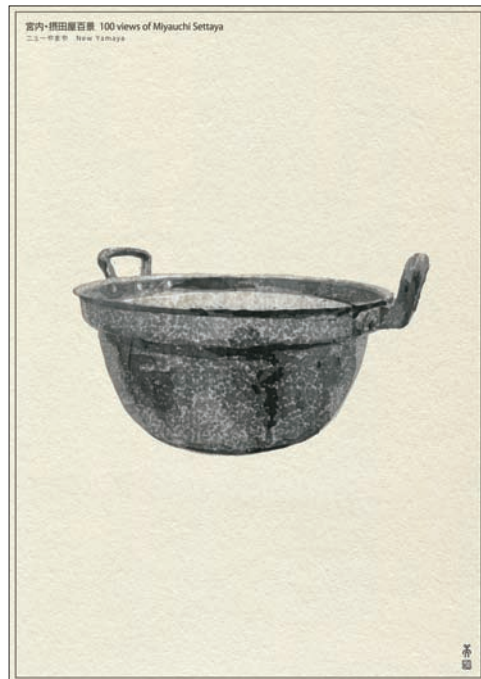
1926 (昭和1) 年創業の豊店だ。ご主人の豊への情熱がとても印象的である。豊は私たち日本人の生活にととても身近なものである。しかし、その機能や用途が変化している事を知るものはない。長岡の豊店もだいぶ減ったそう。描いたのは「しめ鉤」という道具である。豊を縫う糸を締めるのに使用する道具だ。



たかだみつみ-03

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 志満屋 (宮内3丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

宮内商店街にある割烹・住出し屋だ。描いたのは年季が入った木製の道具箱だ。奥さんがお嫁にくる以前から志満屋にあり、壊れても補修をし、現在も使用されている。やはり、使い慣れたものが愛着もあり、使い易いそう。志満屋の歴史と共にある道具である。



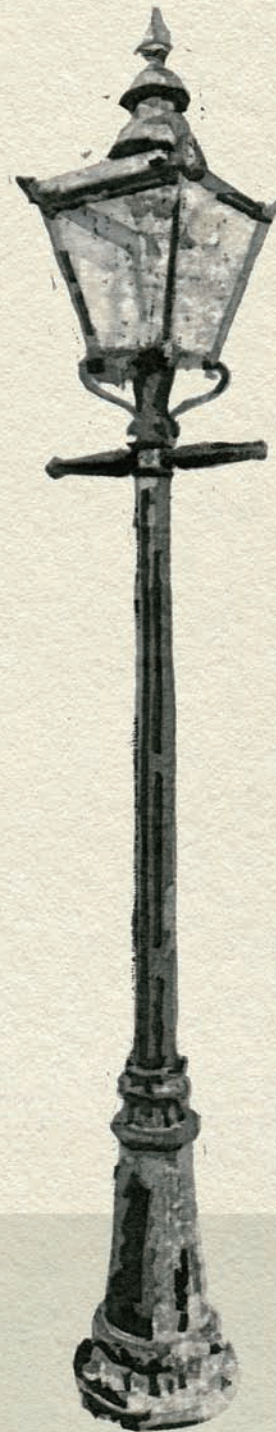
たかだみつみ-04

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 ニューやまや (宮内3丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

割烹会席のニューやまやは1950 (昭和25) 年創業で、現在の主人は2代目となる。とても仲の良い芸術が大好きなご夫婦で、いつもお二人で全国各地の展覧会を訪れている。店内にはコレクションが所狭しと展示されており、取材に何った際も、楽しいお話をたくさん聞かせていただいた。描いたのは、大鍋だ。この鍋で作られた料理が、多くの人を笑顔にしてくれたに違いない。



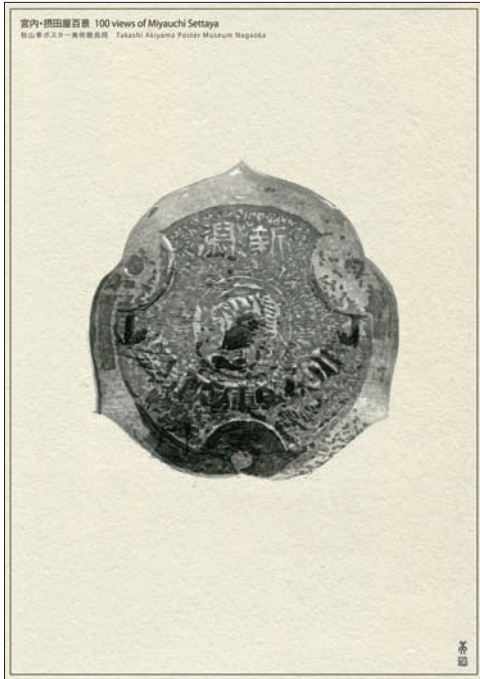
宮内・摂田屋百景 100 views of Miyauchi Settaya  
ガスショップ宮内店 Miyauchi Gus Shop



たかだみつみ-05

[Title] ..... 宮内・摂田屋百景 ガスショップ宮内店 (宮内2丁目)  
[Size] ..... 1030 × 728 mm (B1)  
[Technique] --- Ink-jet printing  
[Year] ..... 2014  
[Client] ..... 秋山孝ポスター美術館長岡  
[Category] ----- Culture

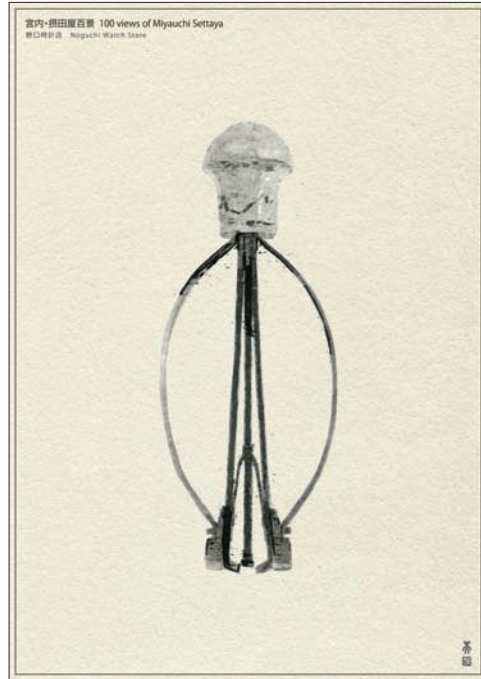
宮内商店街の一角にたたずむ1本のガス灯。お店の改築と共に設置され、30年近く宮内商店街を見守ってきた。現在は壊れており灯す事はできないが、その趣のある姿は、人々の心にあたたかい気持ちを灯しているのだろう。



たかだみつみ-06

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 秋山孝ポスター美術館長岡 (宮内2丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

秋山孝ポスター美術館 (APM) の建物は、1925 (大正14) 年に建築され、銀行として地域の人々の暮らしに貢献した。その後、田上商店倉庫となり、2009年にAPMになった。今でも金庫扉が残っている。この金庫は銀行時代には多くの人々の大切なお金を預かり、現在は展示室とショップを繋ぐ通路として、多くの人々を見守っている。ポスターでは、この扉についてのレリーフを描いた。



たかだみつみ-07

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 野口時計店 (宮内1丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

精密な時計を修理する道具には、緻密な作業が求められる。時計職人は、使い易い道具を自ら作ることも多いそうだ。ご主人が学生時代に使用していた道具も大切に保管されていた。ポスターで取り上げた道具は「針ぬき」だ。小さく細い針を掴むために工夫された形状になっている。取材中も相談にくるお客さんに丁寧に丁寧に対応されており、正に「時計のお医者さん」だと感じた。地域に愛される時計屋だ。



たかだみつみ-08

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 タカモク (摂田屋5丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

高田建築事務所の同敷地内にある材木店である。私の祖父が1950 (昭和25) 年に「高田材木店」を開業し、1992年に「櫛タカモク」となった。工場 (こうば) の中心にシンボルのようにそびえ立っているのは木屑集じん機だ。工場内で出た木屑がこの機械に集められる。祖父の部屋からこの工場が良く見えた。窓から工場を見る度に、いつかこの景色を作品にしようと心に決めていた。



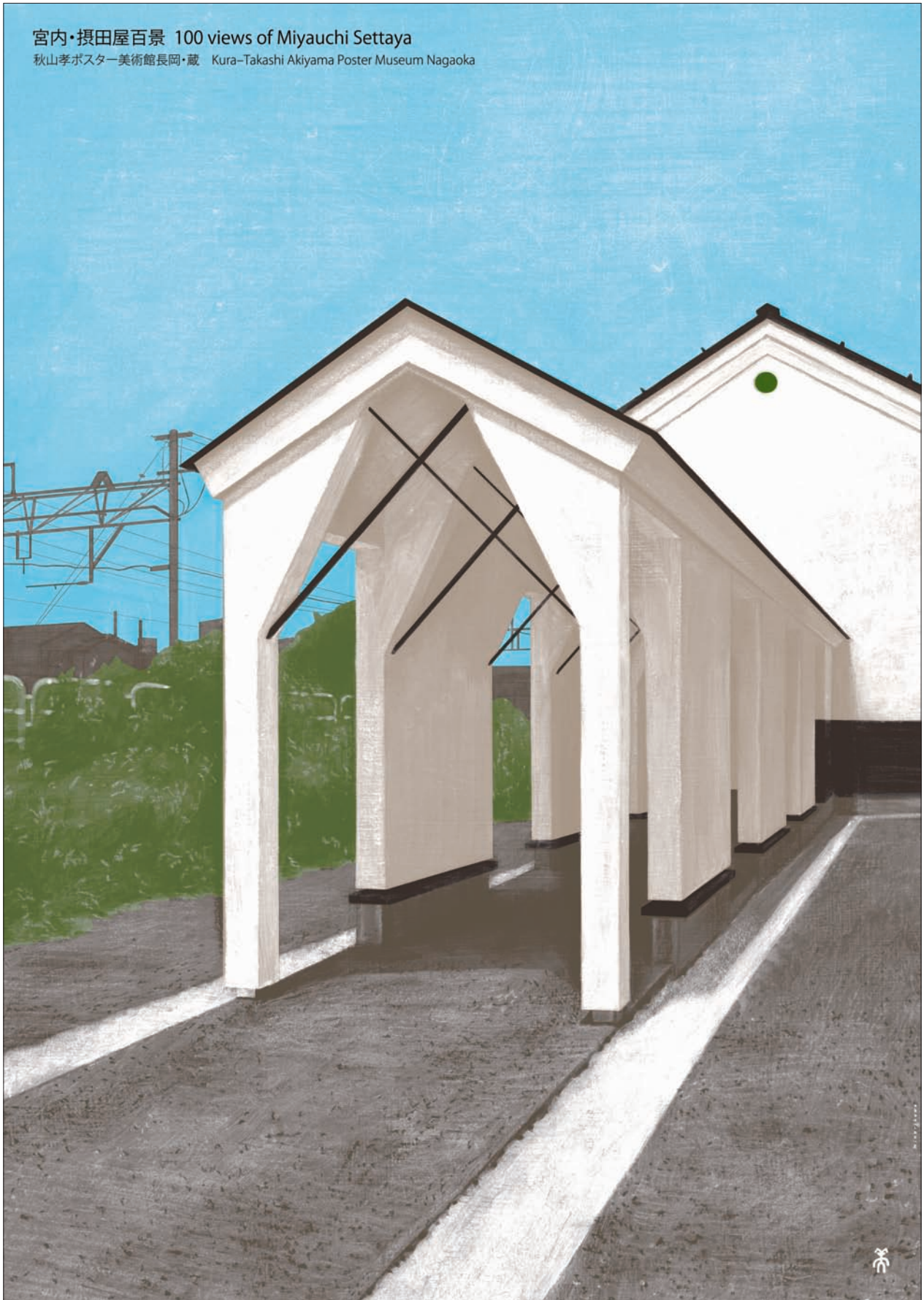
たかだみつみ-09

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 旭屋 (摂田屋4丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

1912 (大正元) 年創業のパンとお菓子のお店だ。店内でジャムやクリームを塗ってくれるコッパンが人気だ。私の同級生の家でもあり、幼少期よく友人と買いに行ったものだ。現在も変わらず美味しきのパンと、テレビで紹介された話題の「煮たまごパン」で、人々に愛されるお店だ。パン作りに欠かせない、普段使用している業務用の秤を見せていただいた。

宮内・撰田屋百景 100 views of Miyauchi Settaya

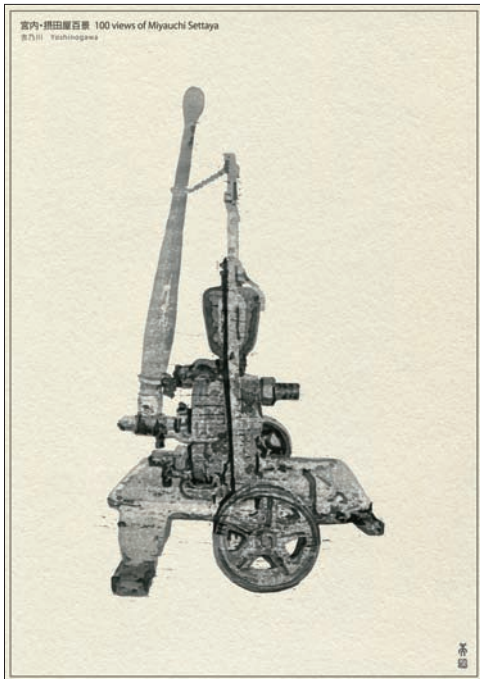
秋山孝ポスター美術館長岡・蔵 Kura-Takashi Akiyama Poster Museum Nagaoka



御法川哲郎-01

[Title] ..... 宮内・撰田屋百景 秋山孝ポスター美術館長岡・蔵 (宮内3丁目)  
[Size] ..... 1030 × 728 mm (B1)  
[Technique] --- Ink-jet printing  
[Year] ..... 2014  
[Client] ..... 秋山孝ポスター美術館長岡  
[Category] ----- Culture

2013年、歴史ある宮内・撰田屋地区に新しく秋山孝ポスター美術館長岡・蔵が誕生した。場所は、宮内駅東口のスロープを降りてすぐ左手である。秋山孝ポスター美術館長岡とともに街の名所となって欲しい。雁木と壁面の白と空の青とのコントラストの美しさを表現した。



たかだみつみ-10

[Title] ----- 宮内・撰屋百景 吉乃川 (撰屋4丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

1548 (天文17) 年創業の酒蔵だ。敷地内に「酒蔵資料館 瓢亭」を併設し、昔の酒造用具や、酒造りの様子の写真などを展示している。ポスターに描いたのは、取手を左右に動かして酒、水を送る手動のポンプだ。瓢亭には他にも、現在は使われていない様々な珍しい道具が展示してある。取材中に、担当の方が私の同級生のお母さんだという事も判明し、それも嬉しかった。



御法川哲郎-02

[Title] ----- 宮内・撰屋百景 旧三国街道 (撰屋4丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

長岡の特徴の1つである冬の雪の降る情景を描いた。ここは旧三国街道で、吉野川株式会社は左右を挟まれた場所を選んだ。左右の建物を繋ぐいくつものパイプがあり、その先に会社のネオンサインが見え印象的である。麹菌で黒くなった板壁と雪の白とのコントラストの美しさを表現した。



御法川哲郎-03

[Title] ----- 宮内・撰屋百景 宮内雁木通り (宮内3丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

新潟県には雪よけの屋根である雁木が多く残る。現在も生活の一部となっている特徴的な建築物である。宮内・撰屋地区にも多く見られる。場所は、宮内駅前交差点の原食品店店の前から見た雁木通りである。木材の褐色を印象的に表現した。



高橋庸平-01

[Title] ----- 宮内・撰屋百景 竹桶茶舗 (宮内2丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

「雁木と看板」をテーマとして、旧三国街道沿いの宮内商店街を描いた。商店街を歩いていると、大小そして新旧さまざまな看板が並んでいるのが印象的だった。竹桶茶舗の看板は「竹桶茶舗」「銘茶」と書かれた大きい布製の看板がひととき目を引く。他にも雁木の柱に設置されたもの、テントや暖簾もさがっており、非常に装飾的な店舗である。



高橋庸平-02

[Title] ..... 宮内・摂田屋百景 柏屋商店 (宮内2丁目)  
[Size] ..... 1030 × 728 mm (B1)  
[Technique] --- Ink-jet printing  
[Year] ..... 2014  
[Client] ..... 秋山孝ポスター美術館長岡  
[Category] ..... Culture

「雁木と看板」をテーマとして、旧三国街道沿いの宮内商店街を描いた。商店街を歩いていると、大小そして新旧さまざまな看板が並んでいるのが印象的だった。柏屋商店は、雁木の柱に設置された商店街共通であろう看板の横に、ゼブラポールペンの広告表示のある看板が併設されている。庇の下を使用した非常にシンプルな構成となっている。



高橋庸平-03

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 綿五ふとん店 (宮内2丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

「歴史と看板」をテーマとして、旧三国街道沿いの宮内商店街を描いた。商店街を歩いていると、大小そして新旧さまざまな看板が並んでいるのが印象的だった。綿五ふとん店の看板は、壁に大きく掲げられ、また二階からせり出した二つの黄色い看板がとても力強く印象的であった。また、庇の下にある看板のかすれた文字に歴史を感じる。



堀池真美-02

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 サフラン酒造 (摂田屋4丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

2枚目のポスターは、サフラン酒造の窓を描いた。サフラン酒造は外壁の模様や窓の数、色鮮やかな鍔絵など、どこをとっても特徴的だが、ここでは窓枠のひたすら重なる直線的な作りをクローズアップしてポスターに描いた。一枚目に描いた鍔絵の魅力とは異なり、色彩と曲線のない静かな作りがとても魅力的な窓だと思う。



柏大輔-01

[Title] ----- 宮内・摂田屋百景 宮内スズキ野口本店 消雪パイプ (宮内1丁目)  
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)  
 [Technique] --- Ink-jet printing  
 [Year] ----- 2014  
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡  
 [Category] ----- Culture

長岡市が発祥である消雪パイプを主題として描いた。普段、夏や秋にこの地区を訪れ、赤茶けた色に染まった道路を興味深く目にしてきた。その原因は、雪を溶かすために鉄分を含んだ地下水を散布していることによると伺っていた。今冬にこの地区を訪れ、その様子を初めて実際に目にする事ができた。地面から一列に水が吹き出ている様子には、雪国の日常にある小さな美しさを見出すことができる。



堀池真美-01

[Title] ..... 宮内・撰田屋百景 サフラン酒造 (撰田屋4丁目)  
[Size] ..... 1030 × 728 mm (B1)  
[Technique] --- Ink-jet printing  
[Year] ..... 2014  
[Client] ..... 秋山孝ポスター美術館長岡  
[Category] ..... Culture

2枚のポスターのテーマは、サフラン酒造である。私が長岡・宮内に初めて訪れた2009年、秋山孝ポスター美術館長岡開館の時に、特別にサフラン酒造の中で秋山先生の大学卒業制作作品の展示を見ることが出来た。そんなとても記憶に残る出会いもあり、私にとってサフラン酒造はとても印象深いものである。中でも一際鮮やかな鍍絵と外壁の特徴的な模様に着目し、ポスターに描いた。



柏大輔-02

[Title] ..... 宮内・摂田屋百景 竹駒稲荷 (摂田屋4丁目)  
[Size] ..... 1030 × 728 mm (B1)  
[Technique] --- Ink-jet printing  
[Year] ..... 2014  
[Client] ..... 秋山孝ポスター美術館長岡  
[Category] ----- Culture

旧三国街道にある竹駒稲荷は、日本三大稲荷のひとつである宮城県岩沼市の竹駒稲荷より、1889 (明治22) 年に勧請された。鳥居の左右の柱の後ろにお狐さまが鎮座している。五穀豊穡、商売繁盛、安産の神として地元の方々に親しまれている。荘厳な印象の門や大きな社殿を持った岩沼の竹駒稲荷とは対照的に、摂田屋の竹駒稲荷はとても小さくてシンプルである。雪の中に健気に建つ小さな神社を描いた。





秋山 孝 AKIYAMA Takashi

1952年長岡市生まれ。多摩美術大学卒業。東京藝術大学大学院修了。多摩美術大学・教授、秋山孝ポスター美術館長岡・館長。受賞：ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ・金賞、1999年ニューヨークフェスティバル・国連賞、他。国際展審査員：ポーランド、他。著書：「Chinese Posters」（朝日新聞出版）、「イラストレーションスタディーズ」（玄光社）、他。



高橋 庸平 TAKAHASHI Yohei

1981年千葉市生まれ。2005年多摩美術大学大学院美術研究科デザイン専攻グラフィックデザイン領域イラストレーション研究修了。東京工科大学助手。受賞：FUKUDAポスター大賞2005・最優秀賞、第2回東京装画賞2013・アルジョウィングズ賞。入選：ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ、モスクワ国際グラフィックデザインビエンナーレ、他。



大町 駿介 OMACHI Shunsuke

1990年札幌市生まれ。2014年多摩美術大学大学院美術研究科デザイン専攻グラフィックデザイン領域イラストレーション研究修了。多摩美術大学副手。受賞：第2回東京装画賞2013・ヤマト賞。大学院では、秋山孝教授のクラスに在籍し「建物イラストレーションの意義」をテーマに研究を行った。



堀池 真美 HORIIKE Mami

1985年横浜市生まれ。2011年多摩美術大学大学院美術研究科デザイン専攻グラフィックデザイン領域イラストレーション研究修了。多摩美術大学助手。入選：第1回東京装画賞2012、メキシコ国際ポスタービエンナーレ、第2回東京装画賞2013。



たかだ みつみ TAKADA Mitsumi

1983年長岡市生まれ。2006年東京工芸大学芸術学部デザイン学科卒業。秋山孝ポスター美術館長岡芸員、長岡造形大学非常勤講師。入選：第53回朝日広告賞。個展：「たかだみつみ木版画展—二十四節気の色、いろいろ。—」、他。



柏 大輔 KASHIWA Daisuke

1987年柴田郡大河原町生まれ。2014年多摩美術大学大学院美術研究科デザイン専攻グラフィックデザイン領域イラストレーション研究修了。同大学院美術研究科博士後期課程在籍。受賞：第4回、5回JPCAデザインアワード・グランプリ、ポスターデザインコンテストTOYAMA2012・銀賞、第2回東京装画賞2013・審査員賞。



御法川 哲郎 MINORIKAWA Tetsuro

1976年さいたま市生まれ。2001年多摩美術大学美術学部グラフィックデザイン学科卒業。長岡造形大学准教授。受賞：アクリルアワード2005・大賞、第1回東京装画賞2012・審査員賞、第23回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ・金賞、第2回東京装画賞2013・会員賞、グラフィックポスター年鑑2014・プラチナメダル。

## 「建物イラストレーションの意義」 大町駿介

下記に掲載されているものは、2013年度 多摩美術大学大学院美術研究科修士論文、大町駿介による「建物イラストレーションの意義」の5-2「新潟県長岡市宮内・撰田屋地区における研究」からの一部抜粋である。

### 5-3-1 宮内地区

宮内地区はJR上越線・信越本線宮内駅を中心とする商業地区であり、1882年に開通した旧三国街道（現在の県道370号線など）沿道に発展している。北は用水路である福島江（ふくしまえ）を境に宮原地区に接し、南は宮内一丁目交差点を境に撰田屋地区に接する。旧三国街道は線路に分断され、その北の5～8丁目を「宮内本町」と呼び、南の1～4丁目をかつては「宮内原」と呼んだようである[注26]。

短冊状の敷地に細長く建て込んだ「町家（まちや）」[注27]の形式を示す住宅・商店が並び、すべて切妻屋根の妻面が玄関となる「妻入（つまいり）」になっている(図3-9)。さらに道路に面して大きな庇が設けられ、それが家々を連結している。これは新潟県一帯で「雁木（がんぎ）」と呼ばれている。『北越雪譜』に描かれるように新潟県では雪が多く降るが、町家では建物の左右にスペースがないことから下ろした屋根の雪を道に積んでゆくので、そのような場合の往来を確保するために設けられたものである(図3-10)。宮内駅より北側では、櫛の歯が欠けるように立て替えられて雁木が途切れてしまったためか、雁木部分を閉鎖してあるものが多い。

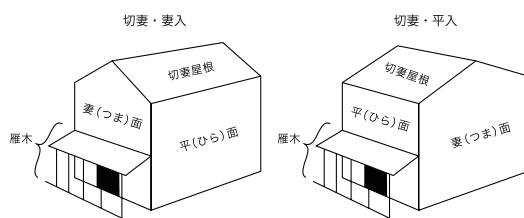


図3-9 妻入／平入と雁木



図3-10 新潟県歴史博物館にある積雪時の再現ジオラマ



図3-11 石置き木羽葺き（左奥）



図3-12 三本経の巻鬼瓦



図3-13 真壁

総じて屋根の傾斜がゆるやかである。雪が自然に滑り落ちないように工夫されているものであろう。また屋根は現在は瓦かトタンで葺かれているが、上組小学校に保存されている本地区の昭和10年前後の写真資料を見ると「石置き木羽葺き」となっているものがあり(図3-11)、石が転げ落ちないように屋根の傾斜がゆるやかになったものとも考えられる。瓦屋根としたものは、「三本経の巻」と呼ばれる鬼瓦[注28]を使用しているのが特色である(図3-12)。

道路に面した妻面は上部が漆喰塗りの「真壁(しんかべ)」であり、木組みが装飾的に表されている(図3-13)。しかし年代の新しいと思われるものや補修が加えられたものでは、木組みがサイディングで覆われて見えないものも多い。

近代建築では、現在「秋山孝ポスター美術館長岡」となっている建物がある(図3-14)。もと「長岡商業銀行宮内支店」として1925年に建てられたもので、その後1929年に「六十九銀行宮内支店」、1942年「長岡六十九銀行宮内支店」、1948年「北越銀行宮内支店」と変遷した[注29]。1970年に支店が移転したのちは商店倉庫として使われていたが、のちに修繕され2009年に美術館となったものである[注30]。これは鉄筋コンクリート造りでありながら、切妻・妻入に雁木をそなえた伝統様式を踏襲したものである。石積み風に目地が切られた前面、タイルや石材が用いられた側面の壁は、年月を経て古色を帯びている。

町家の商店群の詳細な建築年代は不明だが、1945年8月1日の長岡空襲で上記の「秋山孝ポスター美術館長岡」以北が焼失した記録があるので、焼失区域にある建物は戦後のものに違いない。それ以南は航空写真(図3-15)[注31]と現状とを比較する限り空襲以前からあるものようである。1901年10月に宮内駅付近の雁木のある商店群が整備されたとある[注32]ので、そこまで遡ることができるかもしれない。

### 5-3-2 撰田屋地区

撰田屋地区は宮内地区の南隣に位置する醸造業の町である。日本酒が「吉乃川」「長谷川酒造」、味噌・醤油が「星野本店」「越のむらさき」「星六」、「サフラン酒」を造る「機那サフラン酒本舗」の6つの業者がある。いずれも伝統建築から近代建築までの建物を残している。板壁や石材が麹菌により黒ずんでおり、独特の景観を形作っている。各醸造業者の主屋や宮内から連続する三国街道沿いの商店群には、宮内の町家と同一の様式が見られる。そのうち越のむらさき主屋(図3-16)は1877年、長谷川酒造主屋(図3-17)は1886年の建築である[注33]。

醸造業者を中心に土蔵がいくつか残されている。いずれも町家と同じくゆるやかな屋根を持ち、また「はちまき」(図3-18)の造形が立体的である。機那サフラン酒本舗の「鍔絵(こてえ)蔵」(図3-19)は河上伊吉という左官により1925年に建てられたものだが、全面を覆う鍔絵の美しさは比類がない。はちまき部分や窓の「まぐさ」を白と黒の漆喰で塗り分けているのが特徴であり、鍔絵蔵のほか味噌星六(図3-20)、越のむらさきの土蔵に見られる。また醸造業者では妻面に黒漆喰で「家印」を描いており(図3-21)、左官技術による装飾が意欲的に行われていたことが伺える。聞き込み調査により、2004年の中越地震で多くの土蔵が倒壊したことが分かった。

近代建築では、吉乃川酒造に「常倉(じょうくら)」と呼ばれる大正期の鉄筋コンクリート造りの倉庫が残っている(図3-22)。蕨の絡まるさまや修繕が重ねられて古色を帯びたさまに特長がある。また現在は取り壊されて残っていないが、かつては1923年の「オンヨネ撰田屋工場(旧上組信用組合)」(図3-23)[注34]、1932年の「宮内公民館(旧上組村役場)」(図3-24)[注34]が「常倉」の並びに建ており、「オンヨネ撰田屋工場」は洋風の装飾を取り入れつつ切妻・妻入を残したデザインであったが、「宮内公民館」は完全なモダニズム建築であり、塔屋のある左右非対称なデザインとなっていた[注34]。近代建築が人々に受容される過程を垣間みるようで興味深い。



図3-14 秋山孝ポスター美術館長岡

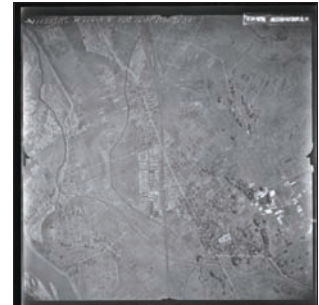


図3-15 米軍が1946年4月16日に撮影した宮内・撰田屋地区の航空写真。中央を斜めに走るのが三国街道、左上が宮内駅。ほぼ中央に現在の「秋山孝ポスター美術館」があり、それ以南には建物が残っている。



図3-16 越のむらさき主屋



図3-17 長谷川酒造主屋

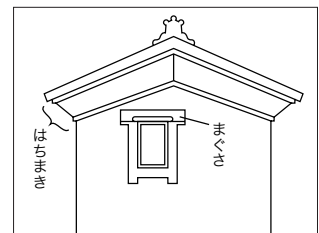


図3-18 「はちまき」と「まぐさ」



図3-19 「鍔絵蔵」



図3-20 味噌星六土蔵

- 注26 中村吉五郎『宮内原沿革史原稿 写』宮内原組合、p. 2、1936年(2003年再刷)  
 注27 上田篤、土屋敦夫『町家・共同研究』鹿島出版会、pp. 44-45、1975年  
 注28 坪井利弘『日本の瓦屋根』理工学社、p. 58、1976年  
 注29 北越銀行『創業百年史』北越銀行、p. 787、1980年  
 注30 <http://apm-nagaoka.com/aisatsu.html> 『秋山孝ポスター美術館長岡/Takashi Akiyama Poster Museum Nagaoka』 「ごあいさつ」に記載、秋山孝ポスター美術館長岡、2014年1月4日閲覧  
 注31 <http://mapps.gsi.go.jp/> 『地図・空中写真閲覧サービス』国土地理院、2014年1月4日閲覧  
 注32 中村吉五郎『宮内原沿革史原稿 写』宮内原組合、p. 3、1936年(2003年再刷)  
 注33 [http://www.city.nagaoka.niigata.jp/shisei/tayori/h24/t2411/2411news\\_5.htm](http://www.city.nagaoka.niigata.jp/shisei/tayori/h24/t2411/2411news_5.htm) 『長岡市政だより 撰田屋醸造のまちを訪ねてみませんか』長岡市役所、2012年11月、2014年1月4日閲覧  
 注34 建設省六日町庁舎35周年記念行事実行委員会『新潟県の近代建築』北陸建築弘済会、pp. 87-88、1994年

## 5-5 調査のまとめ

以上の調査から次のことが分かった。

宮内・撰田屋の建物は、長岡市街地を中心として発展した藩政時代から続く独特の建築様式を保存しているものである。長岡の建築様式はおそらく長岡を中心にして「旧長岡藩領」一帯に分布しているが、長岡市街地では空襲や再開発の影響で様式が薄らぎつつある。同様に「旧高田藩領」には長岡とは全く異なる様式が広く行われている。柏崎や直江津など北前船寄港地では、海運により他地方から移入した様式が見られるようである。しかし雁木は新潟県下の多くの都市に共通して設置されており、新潟県を代表する建物の特色だと言える。また近代建築にも伝統様式が取り入れられたものがあり、外来様式の受容の過程を示すものとして貴重である。

長岡の様式と高田の様式を比べると、長岡の様式では「妻面を真壁とし、木組みを美しく表すこと」に優れたところがあると感じる。木組みのデザインや雁木の取り付け方は地方や年代によって決まったものがあるようだが、宮内・撰田屋の建物を見るとその上に風雪による古色に加えられ、さらに住民の手で補修が重ねられて、一軒一軒に独特の表情をつくり出しているところが魅力を増しているように感じる。つまり「定まった伝統様式の枠組みの中でバリエーションが生じること」が建物の魅力である。



図3-21 星野本店土蔵



図3-22 吉乃川「常倉」



図3-23 オンヨネ撰田屋工場



図3-24 宮内公民館

## “宮内・撰田屋百景”

発行日 : 2014年4月19日  
 発行者 : 秋山孝  
 発行所 : 秋山孝ポスター美術館長岡  
 〒940-1106 新潟県長岡市宮内 2-10-8 / Tel,Fax : 0258-39-1233  
 E-mail : [info@apm-nagaoka.com](mailto:info@apm-nagaoka.com) URL : <http://apm-nagaoka.com>

編集/デザイン : 秋山孝、御法川哲郎  
 印刷所 : 東銀座印刷出版株式会社  
 ※無断で複写、複製および使用を禁ず。

## “100 views of Miyauchi Settaya”

Date of issue : 2014.04.19  
 Publisher : Takashi Akiyama Poster Museum Nagaoka  
 2-10-8 Miyauchi Nagaoka-city Niigata 940-1106 Japan / Tel,Fax : 0258-39-1233  
 E-mail : [info@apm-nagaoka.com](mailto:info@apm-nagaoka.com) URL : <http://apm-nagaoka.com>  
 Edit/Design : Takashi Akiyama, Tetsuro Minorikawa  
 Printed in Higashi-Ginza Insatsu-Shuppan Inc.

© 2014 Takashi Akiyama, Published in Japan by Takashi Akiyama Poster Museum Nagaoka.

All right reserved.No part of this book may be reproduced in any form or by any means, electronic or mechanical,including photocopying or recording, or by any information storage and system, without permission in writing from the publisher.

・中綴じ製本/A4(天地297×左右210mm)  
 ・表紙・本文:マットコート135kg

